

産地戦略

実施期間 令和6～11年度

実施主体 高知県・芸西村
都道府県 高知県
対象地域 安芸郡芸西村
対象品目 トルコギキョウ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

栽培終了後の初夏から夏期にかけての土壌くん蒸剤等による土壌消毒を実施しているが、ハウス内で高温時期に使用することによる生産者への身体的負担や、土壌深部に存在する細菌性の土壌病害に対して効果が不安定であった。このことからより効果の安定した土壌処理方法と作業負担の軽減が求められていた。この技術の普及により環境への負荷や作業者への負担を可能な範囲で減らすことができ、従来の方より土壌深部の病原菌への防除効果が期待できる低濃度エタノールによる土壌還元消毒の普及を進め、トルコギキョウの生産及び経営の安定化による産地の発展を促すことで、消費者の安定供給や環境負荷の少ない生産方式移行への期待に応えられる産地を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫			土壌消毒		定植			収穫				
技術名				化学農薬灌									



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫			土壌還元消		定植			収穫				
技術名				還元資材処									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6		目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	5.4	▶	5.4	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.4	▶	2.4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1.4	▶	2.4	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1.4	▶	2.4	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬による土壌くん蒸	▶ 低濃度エタノールによる土壌還元消毒	化学農薬の使用回数の削減
省力	土壌くん蒸剤灌注機による土壌灌注	▶ 既存の灌水施設を利用した低濃度エタノール処理	処理時間及び身体的負担の軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬の使用回数（回）	1	▶ 0	クロルピクリン液剤 1 → 0 回
省力	処理にかかる時間（時間）	12	▶ 10	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

従来の化学農薬による土壌消毒から農薬を使わない防除方法に転換し、環境に負荷の少ない方式かつ効果の高い技術を導入することで、環境へ配慮しながら生産性の高い、かつ消費者にも選ばれる産地化が期待できることから、関係機関一体となって推進していく。

関係者の役割

関係者名	安芸農業振興センター農業改良普及課	JA高知県安芸宮農経済センター営農指導課		
役割	・技術指導 ・新技術の情報収集提供（生産者研修会や現地検討会、巡回等の実施支援） ・現地検証の企画、実施	・技術指導 ・生産者研修会や現地検討会等の開催 ・現地検証の実施支援		

その他